



シリーズ がんとその予防

公立学校共済組合近畿中央病院
消化器内科医長

ひらかわ ひでゆき
平川 秀之

膵臓がんについて

みなさん、膵臓という臓器を御存じでしょうか？

普段、あまり気にすることが少ない臓器の一つかと思います。

膵臓は胃の後ろに位置しており、長さ15～20cm程度の細長い臓器です。

主な役割としては

①**食べ物の消化を助ける膵液を作る外分泌機能**

②**血糖値などをコントロールする内分泌機能**があります。

今回は膵臓がんについてお話しさせていただきます。

一般的に膵臓がんというのは膵臓の膵管という部分から発生した膵管癌のことを指します。

2018年 がんによる死亡者数は全体で4位となっています。

●2018年の死亡数が多い部位は順に

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	胃	大腸	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	胃	乳房
男女計	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓

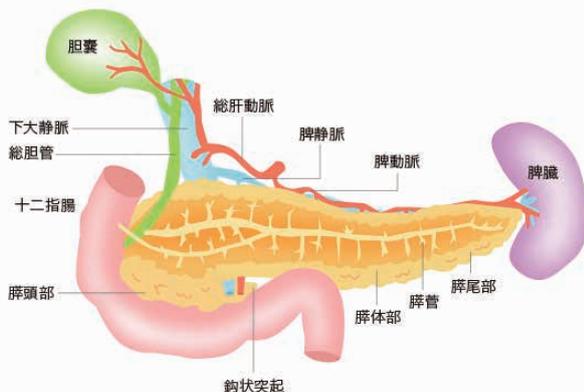
がんと診断され、治療でどのくらい生命を救えるかを示す指標の一つに5年生存率がありますが、癌全体では64.1%ですが、膵臓がんでは8%と非常に低く、治療が難しい病気です。

膵臓がんは特異的な症状に乏しく、進行がんとして発見されることが多いのですが、腫瘍径が1cm以下の膵がんでは80%以上の5年生存率が報告されており、長期予後が期待できる膵がんとして位置づけられています。

こういったことから、治療するには早期発見が大切でこういった患者様に膵がんを発症しやすいのか、ということが重要となります。

2019年版膵臓がんガイドラインでは、危険因子として家族歴・喫煙歴・飲酒歴、合併症疾患として糖尿病・肥満・慢性膵炎・膵管内乳頭粘液産生腫瘍・膵のう胞などが挙げられています。

< 膵臓の構造 >



- ①家族歴については3～8.7%と言われ、近親者に膵がん患者が多いほど発生リスクが増加すると言われています。
- ②喫煙ですが日本人では発症リスクは1.68倍で1日の喫煙本数や喫煙期間に関連して増加し、禁煙してからの期間が長いほど減少。喫煙により糖尿病や肥満など他の危険因子による膵がん発生リスクを増加させました。
- ③飲酒については大量飲酒者（日本酒2合・ビール中びん2本）では膵がん発症リスクが1.22倍増加しています。

禁煙やお酒を控えるように注意していただき、家族・親戚の方で膵がんを発症された方がいる場合は注意が必要です。

次は合併症疾患からの危険因子ですが

- ①2型糖尿病患者さんにおける膵がんの発生リスクは1.94倍といわれています。糖尿病から膵がんを合併される場合もありますが、新規発症や急激な糖尿病増悪をきっかけに膵がんが発見されることも多く、急に糖尿病が悪化した場合、一度は膵臓がん合併有無についての検査を検討してください。
- ②肥満については約1.2倍程度増加し、BMI (body mass index 体重(kg) /身長(m) ×身長(m))



という指標が30以上の場合リスクが増加していきます。

- ③慢性膵炎の場合は膵がんの発生リスクが13.3倍と高率です。様々な原因がありますが、禁酒することなど慢性膵炎を治療することで発生リスクは減少します。

腹痛や背部痛、黄疸や体重減少をきっかけに膵がんが発見されることがありますが、多くの場合は進行膵がんの状態で見られます。

禁煙やお酒を控えることや、糖尿病や肥満などの治療しっかりしていただくなど、心当たりのある方は生活習慣の見直しなど考えてみてください。

なかなかご本人の努力で改善できない因子も多数あります。

発症リスクに当てはまる方は定期的な健康診断や定期検査などご検討ください。

簡単ではありますが今回は膵がんについて解説させていただきました。

皆様の健康維持のため少しでもお役に立てることができれば幸いです。

